

2019 年度  
賢明学院中学校  
A I 日程

2019. 1. 19 実施

国 語

(45 分)

- 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- 字数制限があるすべての設問において、句読点は字数にふくめます。

受 験 番 号

【一】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「AIが神になる？」——なりません。「AIが人類を滅ぼす？」——滅ぼしません。「※<sup>1</sup>シンギュラリティが到来する？」——到来しません。

「東ロボくん」と名付けた人工知能を我が子のように育て、東大合格を目指すチャレンジを試みてきた数学者として、多くの人が人工知能に興味を持つことはとても嬉しいことです。その一方で、① たくさんのAI関連書籍が出版され、その多くは短絡的であったり※<sup>2</sup>扇動的であったりしていて、その一部が※<sup>3</sup>喧伝されることで形作られていくAIのイメージや未来予想図が、その実態とかけ離れていることを、私は憂慮しています。

AIは神に代わって人類にユートピアをもたらすことはないし、その能力が人智を超えて人類を滅ぼしたりすることもありません、当面は。当面というのは、少なくともこの本を手を取ってくださったみなさんや、みなさんのお子さんの世代の方々の目の黒いうちにはということですが、AIやAIを搭載したロボットが人間の仕事をすべて肩代わりするという未来はやって来ません。それは、数学者なら誰にでもわかるはずのことです。AIはコンピューターであり、コンピューターは計算機であり、計算機は計算しかできない。それを知っていれば、ロボットが人間の仕事をすべて引き受けてくれたり、人工知能が意思を持ち、自己生存のために人類を攻撃したりするといった考えが、妄想に過ぎないことは明らかです。

AIがコンピューター上で実現されるソフトウェアである限り、人間の知的活動のすべてが数式で表現できなければ、AIが人間に取って代わることはありません。(中略) 今の数学にはその能力はないのです。コンピューターの速さや、※<sup>4</sup>アルゴリズムの改善の問題ではなく、大本の数学の限界なのです。だから、AIは神にも征服者にもなりません。シンギュラリティも来ません。

なんだ、じゃ、AIに仕事を取られて失業するっていうのは嘘か。安心した——。もしかして、そう思われましたか。残念なことに、私の未来予想図はそうではありません。シンギュラリティは来ないし、AIが人間の仕事をすべて奪ってしまうような未来は来ませんが、人間の仕事の多くがAIに代替される社会はすぐそこに迫っています。つまり、AIは神や征服者にはならないけれど、人間の強力なAになる実力は、十分に培ってきているのです。「東ロボくん」は、東大には合格できませんが、※<sup>5</sup>MARCHレベルの有名私大には合格できる偏差値に達しています。

AI楽観論者の人たちは、AIに多くの仕事が代替されても、AIには代替できない新たな労働需要が生まれるはずだから、余剰労働力はそちらに吸収され、生産性が向上し経済は成長すると主張しているようです。※<sup>6</sup>チャップリンの「モダン・タイムス」の時代にホワイトカラーがaタンジヨウしたように、これまでになかった仕事が生まれるのだと言うのです。本当でしょうか。② 私は悲観しています。

「東ロボくん」のチャレンジと並行して、私は日本人の読解力についての大がかりなbチヨウサと分析を実施しました。そこでわかったのは驚愕すべき実態です。日本の中高生の多くは、詰め込み教育の成果で英語の単語や世界史の年表、数学の計算などのBな知識は豊富かもしれませんが、中学校の歴史や理科の教科書程度の文章を正確に理解できないということがわかったのです。③ これは、とても深刻な事態です。

英語の単語や世界史の年表を憶えたり正確に計算したりすることは、AIにとってCのようなことです。一方、教科書に書いてあることの意味を理解するのは苦手です。(中略)

あれ、日本の中高生と同じなのでは？——そう思われましたか。そうなのです。現代日本の労働力の質は、実力をつけてきたAIの労働力の質にとても似ています。それは何を意味するのでしょうか。

AI楽観論者が言うように、多くの仕事がAIに代替されても、AIが代替できない新たな仕事が生まれる可能性はあります。しかし、たとえ新たな仕事が生まれたとしても、その仕事がAIで仕事を失った勤労者の新たな仕事になるとは限りません。現代の労働力の質がAIのそれと似ているということは、AIでは対処できない新しい仕事は、多くの人間にとっても苦手な仕事である可能性が非常に高いということを意味するからです。では、AIに多くの仕事が代替された社会ではどんなことが起こるでしょうか。労働市場は深刻な人手不足に陥っているのに、※<sup>7</sup>巷間には失業者や最低賃金の仕事を掛け持ちする人々が溢れている。結果、経済はAI恐慌の嵐に晒される——。残念なことに、それが私の思い描く未来予想図です。

実は、同じようなことはチャップリンの時代にも起こっています。ベルトコンベアの導入で工場がオートメーション化される一方、事務作業が増えホワイトカラーと呼ばれる新しい労働階級が生まれました。でも、それは一度に起こったことではありません。タイムラグがありました。大学がcダイシユウ化し、ホワイトカラーが大量に生まれる前に、多くの工場労働者が仕事を失い、社会に失業者が溢れました。それが、20世紀dシヨトウの世界大恐慌の遠因となりました。

その時代、ホワイトカラーという新しい労働需要があったのに、なぜ失業者が溢れたのか。答は簡単です。工場労働者はホワイトカラーとして働く教育を受けておらず、新たな労働市場に吸収されなかったからです。

AIの登場によって、それと同じことが、今、世界で起ころうとしています。

（『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』より 新井紀子）

- ※1 シンギュラリティ…人工知能の性能が全人類の知性を越える転換点。
- ※2 扇動…気持ちをあおり、ある行動を起こすようにしむけること。
- ※3 喧伝…盛んに世間に言い伝えること。
- ※4 アルゴリズム…問題を解決するための手順・計算方法。
- ※5 MARCH…明治大学・青山学院大学・立教大学・中央大学・法政大学をまとめた大学群の呼称。
- ※6 チャップリン…一九〇〇年代の喜劇役者。
- ※7 巷間…世間。

問一 線部 a～d のカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 線部①「たくさんのAI関連書籍が出版され、その多くは短絡的であったり扇動的であったりしていて、その一部が喧伝されるところで形作られていくAIのイメージや未来予想図」とは、どのようなイメージですか。本文中の言葉を用いて、四十字以上、五十字以内で答えなさい。

問三 線部Aに入る適切な言葉を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 守護者    イ 支配者    ウ ライバル    エ ファミリー

問四 線部②「私は悲観しています」とありますが、何について悲観しているのですか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 現在ある多くの人間の仕事がAIによって代替されることで、失業者が大量に生まれることが予想される未来。  
 イ AIがすべての仕事を人間から奪うことはないが、近い未来、多くの仕事がAIによって奪われる事実。  
 ウ 仮に現在の仕事がAIに取って代わられても、AIが代わることでできない仕事が新たに生まれるという考え。  
 エ 人間の仕事を引き受け、人間社会を豊かなものにしてくれるはずのAIが余剰労働力を生み出すという現実。

問五 線部Bに入る適切な言葉を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 表層的    イ 重層的    ウ 人工的    エ 人為的

問六 線部③「これは、とても深刻な事態です」とありますが、筆者がこのように述べるのはなぜですか。「仕事」という言葉を必ず用いて、五十字程度で答えなさい。

問七 線部Cに入る適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 白羽の矢が立つ    イ 転んでもただでは起きぬ    ウ 爪に火をともし    エ 赤子の手をひねる

問八 現状、AIが人間のような意思を持ち得ないのはなぜですか。その理由となる一文を本文中からぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

【二】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(問題作成上、一部本文を変更している部分があります)

家がゆれたような気がして、ケン目は目がさめました。汗ですこし冷たくなった体をひきずるようにして、窓のほうに向けると、カーテンのすきまから、朝の光がひとすじ強くさしこんでいました。頭がくらくらとして、ケンは思わず目をつぶりました。いやな気分なのでした。のどを空気が通るたびに、小さなひきつるような音をたてて、信号を送ってくるのです。それは、持病のぜんそくが、ケンをおそおかどうしようかと迷っている音なのでした。

(また、はじまるのかな)

ケン は、だるい体を起こすと、ベッドのはじめに腰をおろしました。

ケンの病気のためにいいというお医者さんのすすめもあって、東京から近く、比較的水がきれいだといわれているこのウミベの町で、ケンとおかあさんふたりは、夏休みを過ごすことにしたのでした。A、うつつてきてから昨日までの五日間、信じられないほどケンの体は調子がよかったです。やつとあいつともおさらばかと、ケン ははればれとした気持ちになっていたのです。

(やっぱりだめなのかな)

①ケン はもうがっかりしてしまつて、体の力をぬくと、うしろにひっくり返りました。そして、切つても切れない、このやつかいな病気を思つて、ちよつと鼻をつまらせました。

しばらくしてケン は、目だけ台所のほうに向けて、「かあさん」と呼びました。「家がゆれたようだけど……」

「おや、ケン、今日は早いね。元氣そうね」

おかあさんのみち代さんは、エプロンで手をふきふき、顔をのぞかせました。(元氣そう……だつて。また、かあさんのいつものごあいさつだ。毎朝おまじないみたいに同じことをいうんだから……気休めいって)

ケン は、みち代さんの顔を見ずに、むすつと起き上がりました。

「ぼくは、家がゆれたみたいって、きいたんだ」

「そうなのよ。今、この道にね、ひっこしのライトバンが通つたのよ。あの丘のてっぺんの家にどなたか越してきたらしいわ」

みち代さんは窓のカーテンをさつとひいてあげました。

「とうとう、あそこにも住む人が現れたのね……」とみち代さんは、ひとりごつたようにつぶやくと、「さあ、わたしたちも活動開始よ、ごはんにしましよ」と部屋を出ていきました。

B ケン は、ベッドのはじめにすわつたまま、とろんとした目を丘の上の家の向けていました。ところどころさびた青いトタン。ヤネのとなりに、ライトバンがとまっています。そのあいを白髪のもじやもじやした頭と、それよりちよつと高い野球帽が行ったりきたりしているのが見えます。ときどき風に乗つて、「アイ、アーツ」というおかしな声と、「ハイ、ハツ」という若い声が聞こえてきました。越してきたのは、外国人かな……ケンはふと思いました。

朝ごはんがすむと、みち代さんはさつそく牛乳を買いに、下の店まで行って、引越してきた人のことを聞いてきました。

「もと船長さんですつてよ。海の見えるのが気に入つたと、あのお家をお買いになつたらしいわ。すごいおとしよりで、ちよつと変わったかたですつて。……東京に残つているお父さんも、あなたの友達のことを心配していたから、お子さんでもいるような家だつたらよかつたのに。おじいちゃんじゃ、がっかりねえ」

「かあさん、あれ……なんだろう」ケン は、みち代さんのこえをさえぎるように、窓のむこうのてっぺんの家を指さしました。その家の南側、ちよつと海を見下ろせるところに、④細い丸太が一本、立てられようとしていました。丸太をはさんで、ふたつの頭がくつつきあい、「むーっ」とか、「ひゃー、きついなあ」というさげび声が聞こえてきました。

「まあ、なんででしょうね。dキセツはずれだけど、鯉のぼりの竿かしら。お孫さんでも遊びにみえるのかもしれないわ。夏休みですものね。そして、ケン、遊んでいただいたら。よかつたじゃないの。」

「べつに」ケン は気のない返事を口の中でぼそりとつぶやきました。

お昼近くになって、ライトバンは草の道をそろそろとくだつていきました。運転手はこまめにハンドルを動かしながら、口笛を吹いて通り過ぎていきました。しばらくして、あたりが静かになると、てっぺんの家からトントントンとかなづちの音がひびいてきました。ケンはその音に気を取られ、いつのまにか胸の中のいやな音のことは、忘れていました。

ケン がぜんそくの。ホツサをはじめておこしたのは、生まれて八カ月の赤ちゃんのときでした。お医者さんにもわからなかつたのに、気が付いたのはお母さんのみち代さんでした。みち代さんは、笛の音のように細くひく息をするケンを見て、七つときに死んだ自分の弟を思い出したのでした。それで、お医者さんやお父さんの一平さんが、今はいい薬があるからだいじょうぶといくら言つても、ケンの病気がこわくてしかたがないのです。そんなお母さんの気持ちがあつたのか、⑤ケンはおくびような子どもでした。たまには友達といつしよに走りたいと思つても、大声で歌を歌いたいと思つても、なんだかこわいような気がしてやめてしまうのです。ケンが一番安心してられるのは、ベッドを窓際に運んでもらつて、ごろごろしながら外を見ることでした。

次の朝、目を覚ましたとき、ケン は越してきた船長さんのことは、すっかり忘れていました。それよりも、まずきのう感じた胸の重さを気にして、わざと軽いせきをしてみました。かすかにのどがせまくなつていような、いやな気分がします。ケン は、つつむようにのどにあてていた手をゆつ

くりと伸ばし、窓をあけて、あれっというように、船長さんの家のほうに細い首をねじりました。それから、振り返って、「かあさん、ちょっときて」と大きな声を出しました。ケン、きのう立てられた丸太の先にぶらさがっているものを指さしました。

「まあ、いったいなんでしょうねえ。洗濯せんたくもんでもなさそうだし」

「船長さん、っていうから……船の旗かもしれない」

「でも、あれ、ズボンよねえ。かあさん、ちょっと行ってきいてこようか。なにかのおまじないですかって」

「そんなこと……きいてどうするの」ケンはくたつと窓に寄りかかりました。二人が見ている前で、そのズボンは風に持ち上げられ、二・三度大きくゆれました。

船長さんの家からは、毎日たえまなく、トンカチの音が大きく小さくきこえてきました。きまつて、午後の三時ごろになると、船長さんはねこを連れて、ゆつくりと坂をおりてきます。そのあと海岸でも散歩するのか、お日さまが西側の小山にかかるころ、山下商店で買ったトマトやきゅうり、お魚などがはいった袋をかかえて、ケンの目の前をゆつくりのぼっていきました。

そして、家に着くと、すこし暗くなりかけた庭に出て、あのズボンを棒の先からおろすのです。

(形はとっても変ってんだけど、やっぱり旗のつもりかな)と、ケンは思いました。

(でも、どうしてかな……。ズボンなんて……)

ケンの頭の中は、すこしずつ船長さんのことについていっていききました。ちょっと話しかけてみようかな、と考えることもありましたが、なんで自分からちゃんとやろうとしたことのないケンにしては、これはほんとうにめずらしいことでした。でも、船長さんは怖そうなかんじです。とても勇気がありませんでした。

⑥ケンはこの自分の気持ちを、みち代さんにはいわないつもりです。もしみち代さんが知ったら、C、船長さんのところまで飛んで行って、「あの、むすこが……お話をしたがっているのですが、…当人は体が弱くて…よろしく」なんて言うにきまつています。

ケンはなぜか、そんなふうにして船長さんと話すのはいやだと思ったのです。

(『ズボン船長さんの話』より 角野栄子)

問一——線部 a のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直さない。

問二——A、B、Cに入る適切な言葉をそれぞれ次のアから選び、記号で答えなさい。

ア たとえば      イ きつと      ウ でも      エ そして      オ あるいは      カ ただし

問三——線部①「ケンは今がっかりしてしまつて」とありますが、なぜいやな気分なのでしょう。『ぜんそく』という言葉をつかつて三十字以内で答えなさい。

問四——線部②「おや、ケン、今日は早いね。元気そうね」とありますが、このおかあさんの言葉をケンはどう感じていますか。次のアから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 毎朝言われるこの決まりの言葉を、その場限りの言葉だと感じて、不安に感じている。
- イ 毎朝言われるこの決まりの言葉を、期待と違う言葉だと感じて、がっかりしている。
- ウ 毎朝言われるこの決まりの言葉を、一時的ななぐさめの言葉だと感じて、腹立たしく感じている。
- エ 毎朝言われるこの決まりの言葉を、自分のことを不安にさせない言葉だと感じて、申し訳なく感じている。

問五——線部③「それよりちよつと高い野球帽が行ったりきたりしているのが見えます」とありますが、この中に含まれる表現技法は何ですか。次のアから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 比喻法      イ 反復法      ウ 倒置法      エ 対句法      オ 体言止め

問六——線部④「細い丸太」にぶら下げられたのは何ですか。五字以内で本文からぬき出して答えなさい。

問七——線部⑤「ケンはおくびょうな子どもでした」とありますが、ケンがおくびょうなのは、みち代さんのどのような気持ちが影響えいぎやうしていると考えられますか。四十字以内で答えなさい。

問八——線部⑥「ケンはこの自分の気持ちを、みち代さんにはいわないつもりです」とありますが、なぜ言わないのでしょうか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分から船長さんに話しかけてみようとしているが、お母さんに伝えると余計なことまで言われそうな気がしているから。  
イ 自分では言えない船長さんに話しかけたい気持ちを、お母さんを通じて伝えることが難しそうなので、お母さんに言ってもらいたいから。  
ウ 自分の気持ちを伝えたいが、船長さんが怖そうだから上手に伝えることが難しそうなので、お母さんに言ってもらいたいから。  
エ ねこを連れて坂道をおりてくる船長さんに自分の気持ちを伝えるために、日々、トンカチを使って自分をきたえているから。

問九 本文に出てくる名前と人間関係を正しく表しているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- |         |        |       |         |        |       |
|---------|--------|-------|---------|--------|-------|
| ア ケン↓船長 | みち代↓母親 | 一平↓医者 | イ ケン↓船長 | みち代↓娘  | 一平↓医者 |
| ウ ケン↓息子 | みち代↓母親 | 一平↓船長 | エ ケン↓息子 | みち代↓母親 | 一平↓父親 |

【三】 次の各問いに答えなさい。

問一——線部のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- ① 昆虫こんちゅうをサイシユウする。      ② サイシユウ電車に乗る。  
③ カイシンの笑みをうかべる。      ④ カイシンして出直す。  
⑤ 無実をショウメイする。      ⑥ ショウメイ器具を買う。  
⑦ 胃はショウカ器官だ。      ⑧ ショウカ活動を手伝う。  
⑨ ボウフウ雨で電車が止まる。      ⑩ ボウフウ林が役立った。

問二——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 流木を初めて見る。      ② 利益を追求する。      ③ 世界の国旗を調べる。  
④ 身の潔白をうったえる。      ⑤ 一挙手一投足を見守る。

問三 □に入る体の一部を漢字一字で答え、慣用句を完成させなさい。

- ① □をはさむ……割りこんで話す。  
② □を結ぶ……協力を約束する。  
③ □が広い……知人が多い。  
④ □が高い……物事を見分けられる。  
⑤ □を決める……決意する。

問四——線部の文中での働きをあとからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 庭に花がさいた。  
② 友人の姉はいつもやさしい。  
③ 私も思い切り走った。  
④ 北海道を旅行する。  
⑤ ずっと笑っていたい。

ア 主語    イ 述語    ウ 修飾語しゅうじょご